



会報「武蔵野」発刊に寄せて

舎友会会長 牧内良平 (舎友No. 91)



牧内良平会長

昨年9月の設立総会で初代会長に選任されました。微力ながら職責を全うしたいと念じています。就任挨拶で、「舎友会の目的のひとつは親睦。それだったら、酒が好きなので務まると思う」と気楽なことを言いましたが、福與卓臣幹事長ら同期の仲間を中心に、強力な役員団を敷いてくれていますので、安心しています。小中学・高校・大学の同期生、職場・地域の仲間。様々な領域で親しみのある付き合いがあると思う。だが同じ釜の飯を食った仲間、その先輩、後輩となると親睦の度合いは格別だ。舎友会より大事な目的は、信陽舎の運営を継続、維持していくためにOBとして支援すること。その一つが入寮する学生たちを開拓、勧誘することで、いろんなネットワークを通じて働きかけていただくことと有難い。その意味で、飯田、松本支部の設立は力強い。舎友は600人を超え、400人は消息が判明。今年は150人の入会を想定しているが、会員数を着実に伸ばしたい。特に若い層の入会と、将来を担う役員への参加が望まれる。

武蔵境寮再建60周年記念式典報告

平成28年9月17日(土)午後13時、アルカディア市ヶ谷「阿蘇の間」において開催された再建60周年記念式典は、邑上武蔵野市長をはじめ来賓7名のご臨席をいただき、舎友60名(北は北海道から西は姫路まで)、在寮生6名の総勢73名の参加者を得て盛大に執り行われ、予定通り午後15時30分閉会となった。

記念冊子発行報告

上記記念式典開催に併せて発行された記念冊子の編集内容は、これまで「五十年史」、「再建二十年(創立70年)史」、「100年のあゆみ」等が発行されているので、再建前の100年については概略(沿革)にとどめ、武蔵境寮再建60年に主題を絞った。

第一部は《武蔵境寮の昔と今》として、再建60年の歴史、写真で見る昔と今、再建当時の寮生活、先輩舎友7名の特別寄稿、さらに信陽舎の今を知っていただくために、現在寮生指導の教材としている「寮生活のしおり」の内容(運営理念・綱領・寮則・定款・現役員等)を掲載した。

第二部は「舎友便り」として、舎友の皆さんの寮生活の思い出や近況報告とした。発行部数は200部で、式典参加者には当日配布し、冊子代納入者で式典欠席者並びに舎友便りを寄せてくれた舎友106名には後日郵送した。

第2回舎友会総会報告

上記再建60周年記念式典の終了後、午後15時30分より舎友相互の親睦と寮運営の支援を目的とした第2会総会が開催された。事務局の福與の進行により、まず舎友会の目的と意義についての説明の後、「会則」の承認、会長他役員を選出と承認、年一回の総会開催、年会費徴収、会報の発行、並びに各支部の組織化等を通じて信陽舎の維持運営を後方支援していくことなどが決定承認された。最後に、会長に就任された牧内良平さんが挨拶に立ち、舎友会が単なる親睦会ではなく、寮の維持運営を支援していくのが目的だとの趣旨に賛同して引き受けた、との心強い話があり午後16時に閉会となった。



武蔵境寮再建60周年記念式典参加舎友

信陽舎 舎友会 会則

- 第1条 (名称) この会は、信陽舎舎友会という。
- 第2条 (所在地) この会を次の所在地におく。
神奈川県横浜市青葉区もみの木台34-8 福興方
- 第3条 (目的) この会は、会員相互の親睦を図るとともに、学生寮の運営を支援することを目的とする。
- 第4条 (事業) この会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。
(1) 毎年1回総会を開き、寮の運営報告、舎友動向の報告等を行う。
(2) 寮生募集のためのPR活動並びに卒業生の就職活動の支援を行う。
(3) 公益財団法人の役員(理事・監事)並びに評議員候補者の推薦を行う。
- 第5条 (会員) この会は、次の会員で構成する。
(1) 財団法人信陽舎大塚台寮、馬橋寮、武蔵境寮に在籍した者。
(2) 公益財団法人信陽舎武蔵境寮、春秋館に在籍した者。
(3) 本会則第3条目的の趣旨に賛同し、会員の推薦があった者。
- 第6条 (役員) この会に、次の役員をおく。
会長1名、副会長4名、監事2名、幹事10名以上20名以内
(1) 会長および監事は、総会において会員の中から選任する。
(2) 副会長は、総会の同意を得て会長が会員の中から選任する。
(3) 幹事は、公益財団法人役員の中から3名、各支部会員の中から1名、各年代から若干名づつとし、幹事の中から幹事長1名、副幹事長2名を選任する。
(4) 役員任期は3年とする。
- 第7条 (役員の仕事) この会の役員の仕事は、次の通りとする。
(1) 会長は、会務を統括し本会を代表する。
(2) 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその代理をする。
(3) 監事は、会計の監査をする。
(4) 幹事は、会長の委嘱により事務局の業務を担当し、幹事長は事務局を代表し業務を統括する。
- 第8条 (経費) この会の経費は、年会費、臨時会費および寄付金をもってこれに当てる。
- 第9条 (設立年月日) 本会の設立年月日は平成27年6月6日とする。
- 第10条 (支部) 各地域在住の会員は、その地区の状況によって支部を設けることができる。
2 支部の設置およびその後の経緯、状況は会長に報告する。
- 第11条 (改正) この会則の改正は、総会において出席会員の過半数をもって行う。
制定:平成27年6月6日

会長	牧内良平(91)
副会長	林 史典(67)
”	池神利勝(109)
”	深澤克己(115)
”	葛岡龍夫(151)
監事	嶋岡洋平(78)
”	片桐勝臣(110)
幹事(副幹事長)	上松三治彦(108)
”	常盤昌昭(136)
”	浅沼弘愛(172)
幹事	竹村治恭(140)
”	伊藤寿彦(162)
”	青柳淳英(280)
”	池野兼浩(298)
”	坪木 崇(408)
幹事長(事務局)	福興卓臣(117)

平成28年度舎友会 会計報告

収入の部	繰越金	12,353
	記念冊子代	322,000
	記念式典参加費	480,000
	祝い金	45,000
	寄付	10,000
合計		869,353
支出の部	記念冊子制作費	123,120
	記念式典費用	396,477
	二次会費用	27,042
	会議費	36,542
	事務費	67,330
	通信費	55,285
	運送費	40,974
	消耗品費	6,480
	雑費	8,078
	手数料	18,656
	小計	779,984
	次期繰越金	89,369
合計		869,353
繰越金内訳	郵便振替口座	84,776
	現金	4,593

寮母・羽生玄子さん訪問

平成28年10月25日、寮生募集PRのため長野県下高校訪問の折に、上田市にお住いの羽生寮母さんを訪ねた。

池神(旧姓飯島)常務理事に飯田から駆け付けた常盤(旧姓高坂)君と私(福興)の3名でそのご自宅におじゃますると、昔の写真集やお別れ時の寄せ書きなどを用意して心待ちにしていた様子。羽生寮母さん曰く、「私には子供がいないけど、寮生たちが私の子供たちなのよ」と言い、寮生たちの消息などが載った新聞記事の切り抜きや、寮生からの便りなども全て大切にファイルしていました。92歳になられたにもかかわらず、寮生たちの名前や性格なども覚えていて、その記憶力としっかりした話振りは昔の理知的な寮母さんの面影そのものでした。

帰りには玄関の外までお見送り頂き、後ろ髪を引かれる思いでお別れした。(福興記)



常盤昌昭・羽生寮母さん・池神氏

舎友会飯田支部設立総会

平成27年5月、8月の二回の準備会合を経て、平成27年12月6日(日)午後14時30分より、飯田市錦町の「ホテル弥生」において 舎友19名に古島理事長と福與副理事長の2名を加え、総勢21名が出席して舎友会飯田支部総会が開催された。

まず、会議室にて金田憲治副幹事長の司会進行により支部設立の趣旨説明があった後、古島理事長及び福與副理事長よりお祝いと寮運営への協力要請等の挨拶があり、下記の通り飯田支部役員の発表があった。

後藤直衛会長の挨拶の後、常盤幹事長より今後の会の活動として飯田・駒ヶ根・伊那地区の高校等へのPR、飯田に面接会場の設置を行うこと等が発表された。

午後15時30分、会議終了後、席を移して親睦会が開かれ旧交を温めるとともに、寮の運営に対する強力な支援を誓い合った。



懇親会場にて

《飯田支部役員》 会長：後藤直衛(5) 副会長：高間成之(38)、武田年史(39) 幹事長：常盤昌昭(136) 副幹事長：金田憲治(164) 事務局長：五島久揮(176) 副事務局長：池野兼浩(298) 事務局員：下岡祥平(524)

《新役員》 平成28年4月に副会長の武田さんがご逝去、副幹事長の金田さんが下條村村長に当選、平成29年に会長の後藤さんが体調を崩され辞任されたため、平成29年3月5日の臨時役員会にて下記の通り新役員が選出された。

会長：高間成之(38) 副会長：下平 肇(87)、仲田長三(89)、坂 好章(99) 幹事長：常盤昌昭(136) 副幹事長：五島久揮(176) 事務局長：池野兼浩(298) 副事務局長：原 錬造(144) 事務局員：下岡祥平(524)



総会



寮歌斉唱

舎友会中信支部設立会合

平成28年9月17日の記念式典の折に具体的な支部組織の設立が話し合わせ、平成28年10月26日(水)、理事2名(池神、福與)が来期寮生募集PRのため松本を訪れるのに合わせて午後18時より松本市内の料理屋

で設立会が開催された。出席舎友は、小池(吉川)章(76)、中山 卓(103)、深澤(倉田)勝吉(135)、竹村治恭(140)、中村與志人(191)、岩原伸(290)、赤羽浩行(400)氏の7名と東京から参加の理事2名の総勢9名であった。

先ず、竹村治恭さんより下記の通り松本中信支部の役員が発表されるとともに、松本での面接会場設置に関しても受け入れは可能との報告があった。

今後、塩尻・諏訪・岡谷地区在住の舎友にも声をかけメンバーを増やすとともに積極的に寮を支援していくこととなった。

《松本中信支部役員》

会長：中山 卓(103) 幹事長：竹村治恭(140) 事務局長：深澤勝吉(135)



中信支部設立会合

長野・東北信支部設立準備会合

平成28年10月15日(火)、理事2名(池神、福與)が募集PRのため長野を訪れるのを機に、長野駅前の料理屋にて午後18時より地区在住の下記4名の舎友と会合を持った。出席者は、神波潔(85)、田川洋介(512)、倉石慎太郎(543)、立野稔(564)氏と理事2名の総勢6名であった。神波さん和其他の3名の年齢差が大きすぎるなどの事情により今回のメンバーでの組織化は難しかった。

今後、中間世代(50~60代)の舎友の参加を促して、1年後位の発足を目指すこととなった。

『学監としての想い〈雑感〉』 理事学監 伊原江太郎(147)

寮生を含め私たちを支えてきた内外の社会・経済環境にも綻びがきたし始めました。そんな情況下、人々は如何に生きるべきか？手本めいたものを見出せない中で、今後、信陽舎の姿はどうなってゆくのだろうか……？信陽舎の明日を考えたとき、現役で活躍している舎友各位の活きた指導・支援は欠かせないところである。日本人男性の平均寿命と私自身の余命を眺めつつ、明日の信陽舎の灯りを消さないようにとの想いを、微力ながらも、もう少しの間持ち続けたいと思う今日この頃です。

随想『徒然に』

武蔵野寮になって60年余。草創期の理事長たちは、意味深い名言を残している。大戦中、満鉄エリートだった加納金三郎さん、外務省の高級官僚だった宇佐美珍彦さん。

加納さんは、寮則を作り、綱領を掲げるに当り、龍水の雅号で「君汲川流 我拾薪」と書いた。君は川流(せんりゅう)を汲め、我は薪を拾わん。川の水を汲み、薪を拾って炊事し、風呂を焚く。人間生活の原点に顧み、寮での共同生活の大切さを訴え、人間的錬成の道場を目指した。

宇佐美さんは、共同生活の大切さの中でも、特に他人との人間的な心の触れ合いを重視、「友の憂いに吾は泣き、吾が喜びに友は舞う」と語った。良き人間関係を作ってくれた旧制高校時代の寄宿舎生活を想い、信陽舎の存在は得難く、意義大なるものがある、とした。

翻って、在寮中の生活はどうだっただろう。残念ながら加納時代は経験してないが、その精神は素朴に生きていたと思う。宇佐美さんからは、直接教えを乞うてないが、まさに、友の憂いに泣き、喜びに舞う、そんな日々を過ごした。

例えば、彼女に振られたとK君から寮に電話があり、新宿で待ち合せ。中央線沿いに各駅前で飲み歩き、西荻窪駅あたりで酔いつぶれたこと。S君からも失恋話があり、男の失恋は、振られるより、好きなのに自分から別れる方が辛い、と生意気なことを言ったことも。

公然と付き合っていた彼女からラブレターが来る度に、寮の玄関に貼り出してくれる仲間がいた。あれもこれも、同じ釜の飯を食い合う仲間だった、から。
会長・牧内良平(91)

エッセイ『信陽舎で過ごした1,400日』

言語学には「サピア＝ウオーフの仮説」と呼ばれる学説があります。アメリカの言語学者エドワード・サピアらが唱えた説で、平たく言えば、私たちの認知や思考は言語(母語)の少なからぬ影響を受けているということ。例えば、時の経過は「1時間」「1日」「1週間」「1ヶ月」「1年」などといった単位で認知されますが、「1時間」「1週間」「1ヶ月」という単位は時計やカレンダーがないと実感できません。時計やカレンダーがなく、従ってそれに基づく単位を表す言葉もなかった原始の時代に感じ取ることができたのは、おそらく、明るくなって目覚め、暗くなって眠るというサイクル(「1日」に相当する小さなサイクル)と、季節が移り変わってまた元に戻るというサイクル(「1年」に相当する大きなサイクル)だけだったでしょう。

最も体感しやすい、その小さなサイクルで数えると、現代の人間はおよそ7,300日で成人し、それからほぼ16,000日働いて、男性の場合は生まれてから約30,000日でこの世を去ります。同じ1日でも、「80年間のうちの1日」と見る場合と、「30,000日のうちの1日」と見る場合とでは、後者の方がずっと、それを愛おしく感じませんか？

時間に関しては、文明化された区切り方より、実感できる原始の区切り方のほうが、本当の価値を感じ取りやすいと言えます。

私は、青春期の貴重な1,400日を、信陽舎で、良き先輩・友人・後輩に囲まれて過ごしました。幸運と言うほかありません。

どうか皆さん、貴重なこれからの1日1日を、賢く上手に過ごしてください。

副会長・林 史典(67)

同期会「三八会」開催報告

昭和38年入寮の同期会「三八会」の暑気払いが7月20日午後18時より新宿サンパーク本館6階で開かれた。同期入寮者12名のうち、故人となられた久保田匡さん、藤本富士雄さん、山口靖博さんの3名と消息不明の関沢正躬さん、信州(高森町)在住の小平国俊さんの5名を除き、酒豪ぞろいの7名(上松三治彦、池神利勝、片桐勝臣、五嶋昭、深澤克巳、福田璋夫、福興卓臣)が集まった。卒寮から50年の人生を振り返り、信陽舎での4年間でそれぞれの人生の糧となり礎となつたの共通の想いから、元気なうちは恩返しとして寮の運営をお手伝いしようと確認し合い、大いに盛り上がった。



入寮55年目の「三八会」の面々

昭和43年～44年入寮同期会開催案内

昨年9月の創立110周年・再建60周年記念式典で再会した折に、是非飯田において昭和43年、44年入寮の舎友懇親会をとの話が出た。この世代は団塊の世代だけあって27名の大所帯。そこで飯田在住の五島久揮(176)さんが、一晩じっくりと思い出話ができるようにと下記の企画をたて、開催の運びとなつたのでご案内します。

(問合せ先: 五島久揮 ☎ 090-1033-9587)

日時: 10月28日(土) PM6時～(受付:PM5時～) 会費: 宴会6,000円、宿泊7,000円(朝食付)、雑費1,000円

会場: 信州まつかわ温泉「清流苑」下伊那郡松川町大島2784-1 ☎ 0265-36-2000

返信ハガキによる便り

- ・ 後藤寿明(4): 日頃は元気ですが、少し体力不足のため欠席します。
- ・ 鎮西清高(9): 病氣療養中で長時間の旅行ができません。残念ですが欠席します。皆様お元気で。信陽舎の安定発展を祈ります。
- ・ 福島芳彦(13): 相変わらず老々介護での日々を過ごしています。出席予定ですが万一出席できなくても6千円は寄付致します。
- ・ 武藤高義(16): 昨年は先約別件があり欠席いたしました、本年は諸兄とお目にかかれるのを楽しみにしております。
- ・ 松島 稔(24): 今年はモロッコ、アメリカ東部・南部、南アフリカに行きました。元気なうちに海外旅行を楽しみたいと考えています。
- ・ 伊藤龍夫(26): 今までには旅に出かけようと思つたら直ぐ出かけましたが、その気持ちも少なくなり、今は多摩川沿いの散歩や週2日の囲碁クラブ通いです。慢性腎炎・高血圧で山登り、飲み会は止めて、会社のOB会、中学の同級会の会食だけにしています。
- ・ 安藤光弘(52): 関係者の皆様には寮の運営支援、大変ご苦勞様です。今後の益々の活性化を願っております。

返信ハガキによる便り《続き》

- ・ 浜 国明(65)：友人の孫(安曇野在住、昨年早稲田大入学)を信陽舎に入寮させるべく冊子「武蔵野」を送付するも、ジジ・ババの自宅からの通学希望が強く残念な結果となりました。 ご案内頂いた9月9日前後に仕事(貧乏暇なしで老骨に鞭打って)が入っており欠席します。
- ・ 北原靖久(81)：ボケ防止を目的としてコントラクトブリッジの定例会を開いたり、衰える体力をゴルフで補っておりますが、所詮は小さな抵抗と心得て暮らしております。 9月9日は定期の予定あり、皆様に宜しくお伝え下さい。
- ・ 吉川 史(77)：明治38年より、この神稲の地で続いておりました吉川医院は本年6月30日をもって閉院致しました。 平成30年1月より東京(豊島区雑司ヶ谷)に転居します。
- ・ 神波 潔(85)：東北信在住の名簿を見ました。 若い人が多いのに驚いています。 当日都合で欠席しますが、福興兄はじめ幹事の皆様に宜しくお伝え下さい。
- ・ 下平国俊(113)：梨の収穫、選果場出勤の時期なので欠席いたします。 ご通知を有難うございました。
- ・ 深澤克己(115)：アテネフランセでのフランス語、畑仕事、謡曲、料理教室、テニス、ゴルフ、そして釣りリタイア後も結構忙しい日々です。
- ・ 横地 徹(124)：脳梗塞と直腸癌の手術から5年経ちました。 大好きであったゴルフも出来なくなり残念です。 今は町内会や老人会や氏子神社の仕事で頑張っています。 皆様のご健勝と総会が盛会であることを祈念しています。
- ・ 深澤勝吉(135)：父母の10周忌が予定されているので、今回は欠席させていただきます。 皆様に宜しくお伝え下さい。 中信支部の件は、中山さん、竹村さんと相談して進めていきます。
- ・ 浜太美治(143)：こんにちは、会合に出席できずすみません。 役員の皆様宜しくお願いいたします。
- ・ 平沢忠明(145)：青雲の志をいだし上京、入寮したころを思い出します。 ご盛會を祈ります。
- ・ 尾畑 明(150)：年と共に「ずく」が無くなり、上京の回数も減ってきました。 皆様の健康をお祈り致します。 当方も健康に過ごしています。
- ・ 葛岡龍夫(151)：(株)パークジャパンで仕事しながらゴルフ中心の生活をしております。 肝臓が悪くお酒は飲めなくなってしまいました。 ゴルフに生きがいを見つけています。
- ・ 中村克己(190)：近くの舎友の状況が分りませんので、その後、会える機会がなかなか出来ないのが実情です。
- ・ 鳴海雅治(192)：狩猟、ヨット、大型客船クルージング、日本語教室ボランティア教師、ホームレス・生活困窮者支援などワウワした毎日です。
- ・ 岩原 晃(214)：お世話様になります。 私の息子の岩原大介(舎友番号 449)は、下記に自宅を建て移転しましたので住所の変更をお願いします。 埼玉県草加市(注：個人情報保護のため番地表記は省略。 必要な方は事務局までお問い合わせください)。
- ・ 塩澤 明(230)：チェーンソーや刈払機の講習を受けてボランティア活動にさらに力を入れていくつもりです。 皆さん頑張りましょう。
- ・ 中村泰昭(234)：翌週から海外へ出る予定が入っており、残念ですが断念しました。 皆様に宜しくお伝え下さい。
- ・ 杉本研一(254)：定年退職し、再就職先で第2の人生を始めて2年目に入りました。 カルチャーの違いに戸惑いながらも、「明るく、前向きに」と唱えながら、若い人と一緒に働いています。
- ・ 岩原 伸(290)：昨年は懐かしい顔に会うことが出来、三十有余年前に戻ったようなひと時を過ごすことが出来ました。 幹事の皆様のご苦勞に頭が下がります。 皆様にまたお会いできることを楽しみにしております。
- ・ 仁科圭右(306)：旧姓橋本です。 ご盛會を祈念いたします。 皆様方に宜しくお伝え頂ければ幸いです。
- ・ 大平正章(323)：上京の折、信陽舎の辺りを歩いてみました。 とても立派な建物になって驚いています。
- ・ 関口豊和(479)：現在海外留学中です。 大変良い企画をされたと思います。 ご盛會をお祈りいたします(父親代筆)。
- ・ 矢島好太郎(483)：友人の結婚式のため欠席させていただきます。 すみませんが宜しくお願い致します。
- ・ 田川洋介(512)：今度の舎友会総会で何かしら決めることがあれば、それに異議は申し立てません。 全てお任せいたします。
- ・ 石井隆路(566)：社会人3年目となり、希望していた道とは異なってしまいましたが、淡く残る夢に向かって日々奮闘しています。
- ・ 岩原 優(580)：たまに寮へ遊びに行っています。 社会人2年目となり、知っている寮生が3・4年生と半分になり寂しさを実感します。

《 お詫び： 紙面の都合上お便りを割愛させて頂いた方々には心からお詫び申し上げます 》

故人となられた舎友の皆さんです。 ご冥福をお祈りいたします！

舎友No.	氏名	在寮年
1	稲垣 茂	1956～60
6	佐々木 敏文	1956～58
7	鈴木 康弘	1956～58
8	忠平 格	1956～59
12	福川 瑛司	1956～
15	山下 莊介	1956～59
19	田口 宗平	1958～61
22	田口 隆平	1958～63
25	飯島(石松)一彦	1959～60
32	佐々木 章	1959～60
33	佐々木 保夫	1959～59
39	武田 年史	1959～61
48	古田 義男	1959～63
59	佐々木敏夫	1960～61
60	下平 雅巳	1960～64

舎友No.	氏名	在寮年
68	林 友彦	1960～62
69	前沢 由一	1960～61
72	宮島 儀人	1960～61
73	山口 勝	1960～61
74	山田 精宏	1960～63
80	大竹 靖夫	1961～65
82	久保田 修	1961～65
86	篠田 善博	1961～62
93	宮沢 康太	1961～62
98	木下富士雄	1962～66
100	篠田 守	1962～64
101	田中 光夫	1962～65
104	橋爪 洋視	1962～66
111	久保田 匡	1963～67
118	藤本 富士雄	1963～67

舎友No.	氏名	在寮年
119	山口 靖博	1963～67
122	北原 源春	1964～65
125	篠原 秀彦	1964～68
139	高田 正	1965～69
142	中島 敦	1965～69
149	小口 善幸	1966～68
153	菅沼 信久	1966～70
161	伊沢 民雄	1967～71
163	片桐 美彦	1967～70
170	松尾 敏明	1967～70
216	菅沼 良和	1971～75
324	片桐 正吾	1985～86
434	宮下 創一	1998～2000
455	田村 亘	2000～04

注)事務局が把握できた44名の皆様です

盛り上がった新入寮生歓迎会 平成29年4月22日(土)



参加舎全員で記念撮影

平成29年4月22日(土)午後18時30分に始まった新入寮生歓迎会は、出席者40名にレオックのお手伝いを含めて43名という大人数が食堂に集まったため、ケアハウスからテーブルと椅子を拝借し、苦心の会場設置となり、近年にない大歓迎会となった。定刻に両角副寮長の司会で始まり、まず新入寮生の入場を拍手でもって迎えた。新入寮生も10名(1名は欠席)ともなると壮観なものであった。出席者全員そろったところで記念写真の撮影となったが、人数が多いため撮影にも苦勞。

続いて、丸山副寮長の開会宣言、竹村寮長の歓迎の挨拶があった後、古島理事長とケアハウスの村田新施設長からの祝辞があり、福與副理事長による乾杯の挨拶があって、賑やかな宴会がスタート。

途中、新入寮生の自己紹介があり、林理事から「勉学によって得られた知識も大事だが、それ以上に経験・体験を通してしか得られない感性が重要である。豊かな感性という土壌がないと知識は生かされることはない。寮での協同生活の体験・経験はとても貴重なもので必ず将来の糧となる」との含蓄ある貴重な話があった。

寮生の余興として、実行委員に指名された渡辺君が知恵を絞った「大喜利」を全寮生を回答者に行い、これまでにない盛り上がりを見せた。このところの寮祭・歓迎会・送別会は、理事からの話ばかりで、寮生たちはお通夜のときのようにおとなしいものであったが、寮生たちの屈託のない笑顔や、目の輝きを見ると、これからの寮風を予感させるものがあった。大盛り上がりのなか、先輩後輩が肩を組んで寮歌の斉唱を行い、両角副寮長の閉会宣言で解散となった。

閉会后、後片付けを済ませたあと、寮母さんを交えての二次会では理事対寮生の腕相撲が飛び出したりで最後まで楽しく盛り上がった。
(運営記録より)



新入寮生と先輩寮生と一緒に肩を組んで寮歌を斉唱

寮生参加の年間行事

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 4月 : 新入寮生歓迎会 | 10月 : ケアハウスとの合同夜間避難訓練 |
| 6月 : ケアハウスとの合同夜間避難訓練 | 11月 : ケアハウス主催「介護と福祉の地域際」 |
| 7月 : ケアハウス主催「夏のビアパーティー」 | 11月 : 寮祭 |
| 8月 : ケアハウスとの合同夜間避難訓練 | 12月 : ケアハウス主催「越年お楽しみ会」 |
| 9月 : スポーツ大会 | 2月 : 卒寮生送別会 |

寮会(寮生自治会)は、毎月第1水曜日午後19時より行われている

舎友会会報「武蔵野」発行おめでとうございます

公益財団法人 信陽舎
理事長 古島史雄



古島史雄理事長

信陽舎舎友会報「武蔵野」が発行されるとのこと誠におめでとうございます。
舎友会もいよいよ本格的な活動が始まったようで、舎友会役員の皆様の皆様のご努力に対し心から感謝申し上げる次第です。

現在、学生寮は下記の法人役員の方々の奉仕精神によって順調に運営されておりますが、役員の方々の大半がすでに70歳を超えております。歴史と伝統ある学生寮の運営・維持のためには、若い舎友の方々の参画が近々の課題となっております。会報「武蔵野」を通じてお互いの親睦を深めるとともに、寮の現状や運営の実態をご理解いただき、法人役員として参画していただくことを大いに期待しております。自薦・他薦を問いません。若き日にお世話になった寮への恩返しのお気持ちで多少なりともお力を拝借いただければ幸いに存じます。

公益財団法人役員

【役員:理事・監事】

舎友No	氏名	入寮年	居住地	資格・担当
47	古島 史雄	1959	横浜市港南区	理事長
117	福興 卓臣	1963	横浜市青葉区	副理事長
109	池神 利勝	1963	東京都大田区	常務理事
129	土屋 雅敬	1964	東京都新宿区	常務理事
147	伊原江太郎	1966	東京都八王子市	理事学監
157	牧野 憲治	1966	東京都西東京市	理事学監
67	林 史典	1960	千葉県四街道市	理事
78	嶋岡 洋平	1960	埼玉県さいたま市	理事
115	深澤 克巳	1963	横浜市旭区	理事
151	葛岡 龍夫	1966	茨城県守谷市	理事
136	常盤 昌昭	1965	長野県飯田市	理事
298	池野 兼浩	1981	長野県飯田市	理事
58	久保田光昭	1960	東京都練馬区	監事
408	坪木 崇	1996	山梨県大月市	監事

【評議員】

舎友No	氏名	入寮年	居住地
14	宮川 章義	1956	東京都あきる野市
18	原田 守啓	1957	横浜市旭区
110	片桐 勝臣	1963	東京都板橋区
108	上松三治彦	1963	東京都杉並区
172	浅沼 弘愛	1968	横浜市栄区

(評議員補)

371	南澤 一	1991	東京都武蔵野市
266	福澤 秀志	1976	千葉県市原市

寮母さん紹介

長谷川廣子さん：給食委託業者
(株)レオックより住込み派遣。給食賄いのみならず日常生活における挨拶の面でもご指導いただき、寮生たちから母親同様に慕われている。



運営組織・役員分担業務

- ・運営全般統括 : 古島理事長(代表理事)、林理事(理事長代理)、嶋岡理事(理事長補佐)
- ・理事・評議員会企画運営・対外折衝 : 池神常務理事、深澤理事
- ・会計・財務業務 : 土屋常務理事、葛岡理事
- ・寮生指導・施設管理業務 : 福興副理事長、伊原理事学監、牧野理事学監
- ・給食委託・清掃委託業務 : 福興副理事長、伊原理事学監、牧野理事学監
- ・寮生募集・舎費等集金業務 : 福興副理事長、池神常務理事、常盤理事、池野理事
- ・個人情報取扱担当者 《「個人情報等取扱規定」に則る》 : 福興副理事長
- ・入寮審査選考委員 《入寮審査選考規定」に則り、役員7名・著名OB5名》

: 古島史雄 (理事)	: 伊原江太郎(理事)	: 池野兼浩 (理事)	: 五島久揮 (OB)
: 福興卓臣 (理事)	: 牧野憲治 (理事)	: 高間成之 (OB)	: 竹村治恭 (OB)
: 池神利勝 (理事)	: 常盤昌昭 (理事)	: 仲田長三 (OB)	: 深澤勝吉 (OB)

役員活動スケジュール

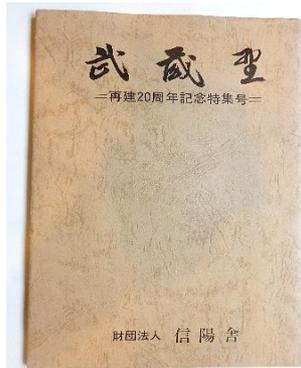
- | | | | |
|-------|-------------------|----------|----------------|
| 1月～3月 | : 入寮審査面接選考 | 9月 | : 理事会 (執行業務報告) |
| 3月 | : 定時理事会 | 10月～11月 | : 寮生募集活動 |
| 4月～5月 | : 事業報告・計画、決算・予算作成 | 2月 (4年毎) | : 評議員選定委員会 |
| 6月 | : 定時評議員会・理事会 | | |

その他 寮会(月1回)、寮・ケアハウス主催各種行事(年10回)等への参加、週1回の寮生指導、設備管理(随時)

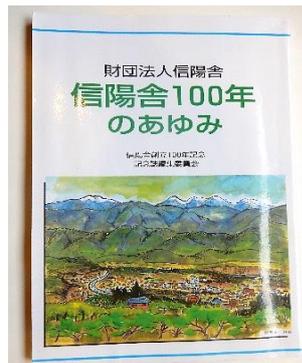
信陽舎発行「舎史」紹介



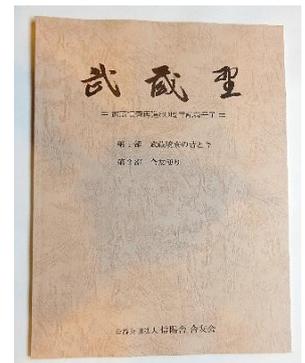
昭和34年発行「信陽舎五十年史」
その将来と寮生活の変遷



昭和51年発行「武蔵野」
再建20周年記念特集号



平成17年発行「100年のあゆみ」
創立100年記念



平成28年発行「武蔵野」
再建60周年記念

書籍紹介 『天地人たり』

著者 牧内 良平
信陽舎舎友会 会長

著者略歴：早稲田大学卒、神奈川新聞社専務取締役、テレビ神奈川社長、会長を歴任、現在名誉相談役

（著者自身の「はじめに」より一部引用）『山の頂たどり着いた。幾重もの尾根を走破して。爽快。やっとの達成感。汗はかいたが、疲れは感じていない。第45回テレビ神奈川の株主総会（2016年6月）を終えて、後輩の役員、局長たちとの懇親会。横浜・みなのみらいの高層ビルから夜景を眺めながら、ひとり、そんな気分浸っていた。・・・（途中略）・・・

今、tvk（テレビ神奈川）で名誉相談役を冠してもらい、社業から直接は離れて、ふと考えた。これまでの来し方、講演やスピーチ、原稿の依頼など、随分としゃべり、モノを書いてきた。新聞記者時代の若き頃原稿もある。「オレの人生は何だったのか」。今更、自叙伝を書き起こす力も、そんな不遜なことはやるつもりはない。でも、記録だけは残っている。それをまとめて本にするぐらいは許されるのではないか。そこで、小誌はこれまでの記録の集大成を趣とし、4章構成とした。・・・（途中略）・・・



自分の人生を結論づけると、「天の時、地の利、人の和に恵まれている」と、心底から思う。純粹にその気持ちを表して造語すれば、「天地人たり」だ。その言葉の是非を、学生寮時代の愛すべき後輩、林史典君（筑波大学名誉教授、元・文化審議会国語分科会会長）に相談し、監修を得た。中学卒業の時、恩師、田中達也先生から「恥を知れ」との送別の辞をもらった。・・・あえて、恥を承知でこの本を上梓した。』

『寮生活のしおり』

寮生に充実した協同生活を送ってもらうため指導教材として平成28年から寮生に配布している。
運営理念・運営綱領・寮則・沿革・定款・寮歌・役員紹介等を収録。



探し物です！

探し物：「大菩薩峠」第1巻 著者：中里介山
探し人：北原靖久（昭和36年入寮 舎友番号 81）

作者・中里介山が北原靖久さんの祖父の友人ということで大切にしていた全41巻でしたが、上京の折、第1巻のみ持参してきて信陽舎で読んでいたが、その後消息が分からなくなった。信陽舎の図書室にないかと先日探したけれど見つからなかったとのこと。もしかしたら、舎友のどなたかがお持ちではないかとも思いお尋ねした次第です。

● お心当たりの方は舎友会事務局（福興）までご一報をお願い致します。

編集部からのお願い 《 お便り大募集！ 》

舎友の皆さんの便りを募集しております。寮生活の思い出、近況報告、舎友の消息・動向、同期会開催報告（写真添付）などの便りを下記の事務局宛にお寄せ下さい。紙面が許す限り会報「武蔵野」に掲載させていただきます。現状としては、会報の発行は年1回ですが、皆さんからの便りの分量次第では発行回数を増やすことも考慮に入れておりますので遠慮なくどしどしお寄せ下さい。

《 会報「武蔵野」編集委員 》	
上松三治彦(108)	竹村治恭(140)
葛岡 龍夫(151)	浅沼弘愛(172)
青柳 淳英(280)	池野兼浩(298)

〒225-0026 横浜市青葉区もみの木台 34-8
信陽舎舎友会事務局 福興卓臣 (フクヨカミ)
☎ (045) 902-2575 携帯☎ 090-9841-6349
E-mail : tof2943@citrus.ocn.ne.jp

会報「武蔵野」第1号 平成29年9月9日発行